

生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討懇話会 第2回会議録

1. 日時

令和7（2025）年10月14日（火） 10：15～12：00

2. 場所

生駒市コミュニティセンター 4階 会議室

3. 出席者

【参加者】5名

佐野修久氏、船本淑恵氏、佐々木啓氏、高松俊氏、領家誠氏

【事務局】4名

巽みどり公園課長、高橋みどり公園課課長補佐、関口みどり公園課主任、塩田みどり公園課事務員

【欠席者】1名

増田昇氏

【傍聴者】

3名

4. 議事要旨

1) 開会

- ・事務局より、本懇話会の座長である増田昇氏が都合により欠席となったため、本会議の座長代行を領家誠氏に依頼する旨を説明。

2) 案件

（1）山麓公園の概要

- ・事務局から説明
- ・意見交換

（2）市民・市外アンケート、事業者ヒアリングについて

- ・事務局から説明
- ・意見交換

（1）山麓公園の概要

- 生駒山ブランドとミシュラングリーンガイドの取得に向けて取り組みがスタートとあるが、その下の山麓公園で充実が求められることの内容は、他の生駒山系の施設に足りないものが挙げられている認識でよいのか。また、それは協議会から示されたもののなの

か、事務局として独自に整理したものか。

- 他の生駒山系内にある施設と重複しているものがあるが、山麓公園で機能を担保できそうなものを掲載している。山麓公園で実現しなければいけないことではない。あくまで協議会が示したものである。
- 1 日目は生駒山を登山して山麓公園で宿泊をしてもらうというような商品があってもよいのではないか。また、温浴施設については商圈を考慮する必要はあるが、入浴料を上昇させ、市民用の回数券を別途設定することで、市民は 450 円ぐらいで入れるようにするというような戦略もある。
- 多機能型とすると、何でもありという風に見えるので、コンセプトとしてどこに重点を置くべきか検討が必要。また多機能型であればゾーニングが重要で、それぞれでターゲットやコンセプトをきめるべき。現状分析と結果の結びつきが見えにくいところもあり、その部分の整理もしてほしい。また、現状分析のみで方向性をきめると機能の取捨選択が難しくなる。課題を整理したうえで、方向性を検討していったらよい。
- 求められる機能の部分で重要度・優先度の観点も必要である。いろいろなものが集まってくるが予算や環境面の制限もあり、その部分を考慮に入れておくべき。
- 現状分析のまとめにある、設置目的の根拠、求められる機能の背景を教えてほしい。また、市と民間の守備範囲を分けて考えているように見える。公は市民福祉である自然、福祉、教育はきっちり担うことで投資も行い、指定管理は外さない。対して民間に浴場が入っており、それは市民福祉ではなく公益集客施設として市は判断しているという認識でいいのか。また、議論の中で変わり得るものなのか。
- 設置目的は、条例上定められたものではなく、前回の指定管理の公募要項に定められた事項である。変わる可能性もあるが、ふれあいセンターに関しては、市の都市公園条例で市民福祉を掲げているものである。

求められる機能は、利用者アンケートや利用状況の結果から導いたものである。山麓公園は大規模施設であり、平坦地にある市内のほかの都市公園とは差別化する必要もあると考えている。休日には非日常を体験してもらうアクティビティ施設となしてほしいし、周辺の山上遊園地や宝山寺との連携も求められると思う。
- 公民それぞれが責任を持つべき対象施設が整理されていると、優先度が決めやすくなる。また、多機能型もよいが、行政として絶対に必要な機能は整理しておくべきだろう。
- サウディングについては市が投資してからやってもらうのか、また民間投資でやっていけるのかを確認していく必要がある。浴場については今のままでは収益を上げる

ことが難しい。

野外活動センターについても、キャンプ場よりもロッジの人気の高いことも分かっており、キャンプ場を一部廃止してロッジを増設するという方向性での提案も聞くべきだろう。またアスレチックについては多額の修繕費がかかるということなので、今後のエリア利用の可能性を確認するべきである。

- 室内遊戯場などは公共の担当範囲とみなすこともでき、浴場は民間の収益施設に位置づけることが可能ではないか。主要施設ごとの投資可能性に加え、ゾーニングも絡めて、事業者意向を確認することができないか。事業者の意向次第では、行政が手をつけなくてもよい部分が見えてくるのではないか。
- 前提として、どのような公園をめざすかを整理したうえで、公民の対象範囲を定めるべきである。公民連携手法にも、多様なものがあり、それを念頭に置いて調査を行うべきである。
- 予算、整備費用を賄うという部分では、温浴施設は圏内の平均価格で進めていくべき。サウナ×自然のニーズは高まってきており、アメニティの設置やキャッシュレス決済の導入などがほしい。またアクセス面については向上できるのであれば、モビリティの導入などの検討が必要となる。

（２）事業者ヒアリングについて

- サービス・料金への意向について、年代別ではどのようなものであったのか。また、ハード面とソフト面のニーズが矛盾しているように思う。今後のヒアリングで明らかにする必要がある。今後の検討課題についても、アンケート結果に過度に依拠するのは短絡的であり、ヒアリング結果等も踏まえ検討を行うべきと考える。
- サービス・料金への意向といったところで現状維持が最も多いのは想定内で、一番確認したかったのは料金上昇でも質向上の部分である。結果としては浴場が一番高い割合となったので、今後、浴場をどのようにしたらよいのかを考えていきたい。特に浴場は70代以上の利用者が多いが、そのなかでも料金上昇でも質向上という答えが多い。また、50代のアウトドア利用者も浴場の利用が多い、という結果がでており、今後の検討課題について重要な部分になると考えている。

ニーズのクロス集計については、30代～40代については雨天時に子どもを遊ばせる場所がないという事で屋内施設の割合が高い。ただ、ソフト面ではどういったことをして欲しいかという質問だったので、自然を活かしたイベントといったイベントの方に偏った回答になってしまった。50代、60代については入浴と健康、およびレストランが園内1か所しかないため、飲食施設の充実、また入浴後にゆっくりできるスペースが欲しいとの回答があった。70代以上は現状維持という形になっている。

ハード面、ソフト面の矛盾は、アンケートの選択肢による模様である。

- 現状維持というのは満足しているからなのか、違うものがあればまた来たいと思うのかかわからないので、どの人がどういうものを求めているのかという分析が必要。また、アンケート結果からだけでは今後の方向性にはつながらない。
今回の結果だけだと現状維持が多く、現状の強みをより強化していくというふうにも読み取れる。今後、アンケート調査をするのであれば、未来像を掲げて、どの未来像に対して期待値があるかという部分を確認するのがよい。
- 属性の居住地と利用頻度の部分について、事務局が想定している結果だったのかを伺いたい。
 - 居住地については、生駒市 48%で想定よりも多かった。利用頻度については、日常的な利用が想定よりも少なかった。従来の指定管理者による把握で有料施設の利用者割合をみると 6 割から 7 割が市外となっているため、今回の調査結果は想定より市内が多かった。
- アンケートの実施方法について教えて頂きたい。
 - 対面で園内に 6 カ所程度に調査地点を設けて実施した。従来の指定管理者が実施する有料施設向けのアンケートとは異なり、無料利用者の実態を把握するため山麓公園入口付近の駐車場、ふれあいセンターの屋外周辺、大型遊具周辺に滞在する利用者を主に対象としている。計 4 日間で、場合によっては園内を周遊し散策している利用者に対しても行った。
- 平日と土日で客層が異なる可能性もあるし、8月、9月の暑い時期であることが、回答内容に影響した可能性もある。より踏み込んだ調査が必要となれば、補足の調査を検討されたい。
- 検討課題という部分は、アンケートの結果概要と現状という部分だけでは導けず間を埋める内容が必要。より全体的な把握を行うことで質の高い検討課題になると思う。
 - 第 1 回懇話会では、見えない公園利用者にアンケートを取り、方向性が見えた上で市民・市外にアンケートしてはどうかという部分で、利用者アンケートは補足的なものになる。市民・市外アンケートはより精度をあげた上で実施していきたい。
- 調査には、ニーズ調査と、理想像を掲げる調査の 2 種類があると思うが、ニーズ調査だけで方向性を固めると課題解決型になる。指定管理者などと協議も重ねた上で、今後の将来像をある程度固めてアンケート調査を行う方が一定の効果は得られるのではないかな。

- 子ども連れの人は事前にしっかり調べてくる場合が多く、期待値が高くない。新しい層の掘り起こしにはその部分が必要になってくる。利用頻度を上げたいのであれば、どういふものを提供すれば目を向けてくれるのか、といった視点も次のアンケートには必要。

福祉事業者についてはあまりない取り組みで、環境面については街中と比較してもよいもので残してほしい。ただ、現地調査のときに動線が問題と感じており、ゾーンをきれいに分ける必要はあるのではないかと思う。せっかくの公共施設でふれあいがいいというのはいらない部分もあるが、動線をわけると利用者は穏やかに過ごせる。動線を分けた上で、触れ合う機会があればいいと思う。

- 指定管理者については前向きな意見も出ている。投資面で行政側に期待しているところ、民間側で自主事業として拡大したいところを整理してほしい。それに優先順位をつけることで、今後の公民連携を探る材料になる。
- 市民アンケートに関してはコンセプトを確認すると同時に、リピーターとなる要素はなんなのか、来たことがない人が来たくなるような要素はなんなのか、という3つの観点を整理してアンケートを作成していきたい。また、利用者アンケートについては既存の統計や指定管理者のアンケート結果を用いて、行間を埋めるような整理を行い、最終的な基本構想案にアウトプットしていきたい。

3) 閉会

- ・事務局より挨拶と今後の案内

以上